

プレス発表資料

平成21年2月24日
独立行政法人 防災科学技術研究所

防災科学技術研究所第6回成果発表会の開催

独立行政法人・防災科学技術研究所(理事長：岡田義光)は、「防災科学技術研究所第6回成果発表会」を開催します。成果発表会では、昨年、各地に被害をもたらしたゲリラ豪雨や岩手・宮城内陸地震など、自然災害に関する最近の主な研究成果について、一般の方にも分かりやすく紹介します。

さらに、立命館大学の土岐憲三教授より、「文化遺産の防災に関わる研究と事業展開の現状」について特別講演をいただく予定です。

記

名称： 防災科学技術研究所 第6回成果発表会
日時： 平成21年3月17日(火) 13:00~17:55 (参加費：無料)
会場： 東京国際フォーラムB5ホール (JR有楽町駅より徒歩1分)
東京都千代田区丸の内3-5-1
TEL：03-5221-9000
URL：<http://www.t-i-forum.co.jp>
プログラム： 添付資料(プログラム、講演概要)をご覧ください。

1. 本件配布先：文部科学記者会，科学記者会，筑波研究学園都市記者会

<内容に関するお問い合わせ>

独立行政法人 防災科学技術研究所
企画部広報普及課
関口宏二・小島義尚
電話：029-863-7788
FAX：029-851-1622

<連絡先>

独立行政法人 防災科学技術研究所
企画部広報普及課
佐竹弘志・山科 忍
電話：029-863-7783
FAX：029-851-1622

防災科学技術研究所 第6回成果発表会

発表会プログラム

主催： 独立行政法人防災科学技術研究所

日時： 平成21年3月17日（火） 13:00 – 17:55

場所： 東京国際フォーラムB5ホール

（東京都千代田区丸の内3-5-1 URL: <http://www.t-i-forum.co.jp>）

プログラム

13:00 – 13:05 開会挨拶 (理事長 岡田義光)

13:05 – 13:10 来賓挨拶 (文部科学省副大臣 山内俊夫(予定))

第1部 二つの内陸型地震 ～中国汶川地震と岩手・宮城内陸地震～

13:10 – 13:30 中国汶川地震における断層と近傍の構造物被害

(防災システム研究センター 郝 憲生)

13:30 – 13:50 2008年岩手・宮城内陸地震で観測された非対称な地震動

～トランポリン現象の発見～

(地震研究部 青井 真)

13:50 – 14:10 二つの地震で生じた巨大地すべりの地形地質的背景

(防災システム研究センター 井口 隆)

14:10- 14:15 質疑応答

第2部 地震災害軽減への挑戦

14:15 – 14:55 E-ディフェンスの挑戦 ～耐震工学研究のブレークスルー～

(兵庫耐震工学研究センター 中島正愛)

14:55 – 15:45 休憩 (ポスター展示・システムのデモンストレーション)

第3部 特別講演

15:45 – 16:30 文化遺産の防災に関わる研究と事業展開の現状

(立命館大学教授、NPO法人災害から文化財を守る会理事長 土岐憲三)

第4部 安全な社会の構築をめざして

16:30 – 17:10 MPレーダ ～ゲリラ豪雨の事前予測と監視のための新技術～

(水・土砂防災研究部 真木雅之)

17:10 – 17:50 災害リスク情報プラットフォーム ～基本構想と防災科研がめざすもの～

(防災システム研究センター 藤原広行)

17:50 – 17:55 閉会挨拶

(理事 袴着 実)

講演概要

第1部 二つの内陸型地震 ～中国汶川地震と岩手・宮城内陸地震～

○ 中国汶川地震における断層と近傍の構造物被害 (防災システム研究センター 研究員 郝 憲生)

2008年5月12日に中国四川省で発生した汶川地震(マグニチュード7.9)では、四川省西部の映秀鎮と北川県城で中国震度XI(気象庁震度7相当)に達し、都市や農村地域で構造物の倒壊、山地で大規模な地すべり等が発生した。死者行方不明者約8万7千人、負傷者37万人に及び、500万人が家を失うなど、四川省西部や周辺地域に住む約1億人が被災したとされる。防災科研では、地震発生直後より現地に入り、地震に伴い出現した大規模な表層断層や断層周辺の構造物の被害について調査を実施してきた。当日は、これら調査・研究の結果について、特に断層近傍の構造物被害とその特徴について焦点を当て、豊富な写真を交えながら紹介する。

○2008年岩手・宮城内陸地震で観測された非対称な地震動 ～トランポリン現象の発見～ (地震研究部 強震観測管理室長 青井 真)

2008年6月14日に岩手県内陸南部で岩手・宮城内陸地震(マグニチュード7.2)が発生し、栗駒山周辺を中心に山体崩壊や土砂崩れ、河道閉塞などの被害が発生した。この地震では、防災科研の地震観測施設、一関西観測点(岩手県一関市巖美町祭時(げんびちょうまつるべ))において、日本国内観測史上最大となる4022ガル(重力の約4倍)の強い揺れを観測した。本記録を詳細に検討した結果、上下動に特徴的な非対称性がみられ、トランポリンをする人の運動で本現象が良く説明できることが判明した。当日は、世界的な科学雑誌「サイエンス」にも掲載されたこのトランポリン現象とその発生メカニズムについて紹介する。

○二つの地震で生じた巨大地すべりの地形地質的背景 (防災システム研究センター 総括主任研究員 井口 隆)

2008年5月と6月に相次いで発生した中国四川省汶川地震と岩手・宮城内陸地震では、共に巨大地すべりが発生した。防災科研では、両地震の現地調査に基づいて、地すべりの発生状況や発生メカニズムに関する調査研究を進めてきた。当日は、地震による巨大地すべりの発生メカニズムや防災科研が長年取り組んできた「地すべり地形分布図」(過去の地すべり地形をデータベース化したもの)との関係について紹介する。

第2部 地震災害軽減への挑戦

○E-ディフェンスの挑戦 ～耐震工学研究のブレークスルー～ (兵庫耐震工学研究センター センター長 中島正愛)

防災科研では、1995年兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)における、予想を超えた構造物の被害を教訓として、兵庫県三木市にE-ディフェンス(※)の建設を進め、発生から10年となる2005年1月に完成した。これまでに、木造住宅、鉄筋コンクリート造建物、鉄骨造建物、橋梁、高層建物、医療施設など、多種多様な実大構造物について実験を実施し、構造物の破壊過程の究明、1995年兵庫県南部地震以後に制定された耐震基準等の検証、今まで認識されていなかった新たな地震防災課題の抽

出などに取り組んできた。成果発表会では、これまでの取り組んできた耐震実験研究を振り返るとともに、今後、研究の目指す方向性について紹介する。

※E-ディフェンス：実大三次元震動破壊実験施設。実大の構造物に兵庫県南部地震クラスの強い揺れを与えることができる実験装置。

第3部 特別講演

○文化遺産の防災に関わる研究と事業展開の現状（立命館大学教授、NPO法人災害から文化財を守る会理事長 土岐憲三）

人類共通の財産である文化遺産を自然災害から守ることは非常に重要なことであり、昨年11月に、通称「歴史まちづくり法」が施行されるなど、注目を浴びている課題である。NPO法人「災害から文化財を守る会」の理事長として、精力的にこの問題について活動をされてきた土岐憲三教授より「文化遺産の防災に関わる研究と事業展開の現状」について、ご自身のこれまでの活動も交えながら講演していただく。

第4部 安全な社会の構築をめざして

○MPレーダ ～ゲリラ豪雨の事前予測と監視のための新技術～（水・土砂防災研究部 部長 眞木雅之）

昨年は、局所的な集中豪雨が頻発し、各地に被害をもたらした。こうした豪雨は「ゲリラ豪雨」とも呼ばれ、「流行語大賞トップテン」にも選ばれるほど社会的な関心が高まったものであった。防災科研で開発を進めてきた次世代型高性能気象レーダ（マルチパラメータレーダ：MPレーダ）は、実際にこのような豪雨の状況を的確に捉え、MPレーダが局所的な豪雨を観測・予測するのに極めて有力なツールとなることを実証した。また、首都圏南部を網羅する次世代高性能気象レーダ観測網（X-NET）を関係機関と協力して構築し、研究を進めている。当日の講演では、MPレーダの概要、X-NET、それらを用いたゲリラ豪雨など局所的な気象災害の予測技術の現状や、防災科研の研究成果をベースとして実用整備が進められている気象レーダ観測網の動向等について紹介する。

○災害リスク情報プラットフォーム ～基本構想と防災科研がめざすもの～（防災システム研究センター プロジェクトディレクター 藤原広行）

防災科研では、2008年度より、「災害リスク情報プラットフォームの開発に関する研究」に取り組んでいる。これは、「イノベーション25（社会還元加速プロジェクト）」の一環となるもので、地震災害をはじめとして、各種の自然災害（火山、地すべり、洪水、雪など）に関する様々な情報を集約し、地域や国民一人ひとりにとって身近でわかりやすく説得力のある情報に加工して、最新のWeb技術を用いて提供するための情報基盤を構築しようとするものである。これにより、地域や国民一人ひとりの積極的な防災活動・防災行動につながっていくことが期待されている。当日の講演では、災害リスク情報プラットフォームの基本構想について紹介する。

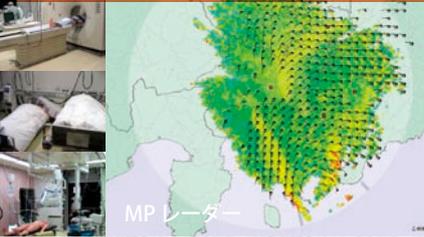
第6回成果発表会

3/17 (火)

会場：東京国際フォーラム B5ホール

13:00

17:55



13:00 開会挨拶

理事長 岡田義光

13:05 来賓挨拶

文部科学省

第1部 二つの内陸型地震 ～中国汶川地震と岩手・宮城内陸地震～

13:10 中国汶川地震における断層と近傍の構造物被害

防災システム研究センター 郝 憲生

13:30 2008年岩手・宮城内陸地震で観測された非対称な地震動 ～トランポリン現象の発見～

地震研究部 青井 真

13:50 二つの地震で生じた巨大地すべりの地形地質的背景

防災システム研究センター 井口 隆

14:10 質疑応答

第2部 地震災害軽減への挑戦

14:15 E-ディフェンスの挑戦 ～耐震工学研究のブレークスルー～ 兵庫耐震工学研究センター 中島正愛

ポスター展示・システムのデモンストレーション

14:55 地震観測データを利用した地殻活動の評価及び予測に関する研究／実大三次元震動破壊実験施設を活用した耐震工学研究／火山噴火予知と火山防災に関する研究／MPレーダを用いた土砂災害・風水害の発生予測／雪氷災害発生予測システムの実用化とそれに基づく防災対策に関する研究／災害リスク情報プラットフォームの開発に関する研究／地震防災フロンティア研究／大都市大震災軽減化特別プロジェクト／高度即時的地震情報伝達網実用化プロジェクト／首都直下地震防災・減災特別プロジェクト／ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究／自然災害情報室／地すべり地形分布図

第3部 特別講演

15:45 文化遺産の防災に関わる研究と事業展開の現状

立命館大学教授、NPO災害から文化財を守る会理事長 土岐憲三氏

第4部 安全な社会の構築をめざして

16:30 MPレーダ ～ゲリラ豪雨の事前予測と監視のための新技術～

水・土砂防災研究部 眞木雅之

17:10 災害リスク情報プラットフォーム ～基本構想と防災科研がめざすもの～

防災システム研究センター 藤原広行

17:50 閉会挨拶

理事 袴着 実

主催・問い合わせ先 独立行政法人防災科学技術研究所 企画部 広報普及課 TEL.029-863-7792

入場料・講演概要集 無料 定員 450名 (参加申込みの状況により人数調整をさせていただきます)

申し込み先：Web (<http://www.bosai.go.jp>) より、お申し込み下さい。

会場：東京国際フォーラム B5ホール (〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号 電話：03-5221-9000)

<http://www.t-i-forum.co.jp>